

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：2024年 2月 22日

事業所名 児童デイサービス わくわく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		・パーティションの活用 ・安静室やテラスの利用	・子どもの様子も見ながら、パーティションや安静室を活用し、子どもが落ち着いて過ごせるように環境設定を考えて実践していく。
	2	職員の配置数は適切である	4	2	・奇数週(第1・3・5)の土曜日の閉所	・職員の配置としては適切ではあるが、活動の内容によっては、増員してほしい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6		・段差がない	・バリアフリーの配慮が必要な児童はいないが、設備としては整っている。 ・車いすも使用できるトイレがある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		・会議の中で行うようにしている。	・職員が日々意識しながら取り組んでいく必要がある。 ・PDCAサイクルについて、職員間で共有する機会が必要。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		・毎年アンケートを行うようにしている。	・保護者の意見や意向等を職員全体で共有を行い、改善につなげる。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		・ホームページに公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	・法人内のサービス向上委員会に参加。	・サービス向上委員会での意見も参考にしながら、業務の見直しと改善につなげていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		・職員自身が自主的に参加している。	・研修については、他の職員へのフィードバックを行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			・支援計画について、会議等で話しあいをして、必要に応じて修正するようにしている。 ・一人ひとりの子どもの状態の把握と支援の方向性を職員間で確認を行っていく。 ・必要な支援は何なのかを、職員一人ひとりが考えて実践していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			・標準化されたアセスメントツールはあるが、使いこなせてはいない。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	・会議の中で話しあうようにしている。	・子どもからの意見も聞きながら、反映させている。 ・職員それぞれが意見を出しあって考えていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	・会議の中で話しあうようにしている。	・少しずつ変化を持たせるように意識している。 ・どのような活動ができるか、職員が常に考えて発信、共有をしていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	3	・会議の中で話しあうようにしている。	・子どものニーズや提案を基に、その都度対応している。 ・いろんな経験ができるように、活動内容の工夫していく。そのために、職員が考えて意見を出しあって実際の活動につなげていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	1	・会議の中で話しあうようにしている。	・子どもの状況に応じて、臨機応変に対応している。 ・支援計画を基にして、実際の支援にいかせているのか、振り返りの時間を持つことは必要。 ・職員のスキルアップが必要。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		・情報共有する時間は毎日とるようにしている。	・ホワイトボードを活用し、その日の動きを把握できるようにしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		・情報共有する時間は毎日とるようにしている。	・気づきについては、普段から職員間の中で共有できるようにそれぞれの発信を大切にする。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		・記録は分担して書くようにしている。	・記録の内容については職員によって差があるため、記録の重要性を再度共有することは必要。 ・記入をして終わりではなく、それを次にいかせているかは課題。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6		・保護者から相談を受けた際には職員間で共有し、必要に応じて支援の見直しを行う。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	1	・いつでも見ることができるよう、ガイドラインはファイリングしている。	・ガイドラインについて再度確認する時間は必要。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6		・送迎時に、学校での様子や下校時間等については確認するようにしている。	・今後も学校とのやり取りは大切にしていく。子どもの状態等、必要なことについては詳細も聞いて把握できるようにしておく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	3	・受け入れる際には主治医等、連絡体制を整える。	・現在、該当児童がいない。該当する児童が利用する場合は、体制を調べていく。 ・受け入れるとなれば、専門的な職員の配置や職員一人ひとりのスキルアップが必要。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	3		・現在、該当児童がいない。該当する児童が利用する場合は、情報共有と相互理解に努める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしている	4	2	・必要に応じて、情報共有をスムーズに行えるように資料を作成する。	
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1		・研修は受けられていないが、必要性は感じるため、機会があれば検討していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	3		・法人内の児童養護施設の子どもと関わることはある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6		・区の子ども支援部会に参加。	・その時々の内容を共有し、意見や提案等があれば、部会にあげている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		・連絡ノートやLINEの活用。 ・送迎時に伝える。	・送迎時の保護者とのやり取りは大切にし、丁寧な対応や言葉遣いを心がけていく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	4		・ペアレント・トレーニングはできていない。	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		・その都度、丁寧な説明を心掛けている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		・職員間で共有しながら、その都度、できることに取り組んでいる。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6		・保護者会を開催し、情報共有の機会をつくっている。	・日程について、曜日や時間帯も考えながら余裕をもって案内していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		・職員間で話し合い、謝罪や改善策をお伝えしている。	・報告、連絡、相談、職員での話し合いを行いながら、今後も迅速に行えるようにしていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		・月に1回、会報を発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	6		・鍵付きのロッカーを使用している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		・視覚的にわかりやすいものを使用している。(写真や絵カード等)	・その都度、子どもにあったものを取り入れていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2	・法人内のフェスティバルの開催。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6			・マニュアルの作成だけではなく、定期的に見直しも行っていくようにする。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		・月に1回行っている。	・火災や地震等、いろんな状況を想定した中で今後も訓練を重ねていく。 ・その都度の訓練をやって終わりではなく、職員の意識の持ち方と子ども一人ひとりの特性の把握は必要。 ・振り返りの時間は今後も行い、職員がいろんな意見を出せるようにしていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		・虐待防止研修への参加。 ・会議の中でも取り上げ、共有を行っている。	・研修は、今後も継続して取り組んでいく。 ・チェックリストも活用する中で、職員それぞれが日々の関わりについて、振り返る機会を大切にしていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		・その都度、記録するようになっている。	・ヒヤリハットについては、職員の中でも捉え方に差がある。 ・小さな事であっても職員が感じたことを日々の中で出しあい、共有していく。